

研究機関：広島大学

研究課題名 術後再発食道扁平上皮癌のリンパ節転移巣、遠隔転移巣に対する外科的切除の意義に関する全国実態調査

研究責任者名 広島大学病院呼吸器外科 教授 岡田 守人

研究期間 2018年5月17日(倫理委員会承認後)～2019年12月31日

対象者

2009年1月から2013年12月の間に、当院で食道扁平上皮がんと診断され手術により根治切除された患者さんで術後再発、再発病変に対し手術を受けられた患者さん

意義・目的

本研究は、全国的に食道癌の再発病変に対する外科的切除に関する実態調査を実施することにより、切除によって長期的な予後が期待できる患者さんの特徴及び傾向を明らかにすることが目的です。いままでに国内外で食道扁平上皮がん限定して比較した研究は少なく、今回の研究を通じて得られる治療成績や治療内容は、今後の実地診療や治療開発にとっても重要な情報になります。また多施設共同研究とすることで、多数例での検討が可能になります。

方法

本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は、年齢、性別、腫瘍部位、進行度、病理診断、再発部位等についてです。これらの情報を個人が決して特定できないようにして記録用紙に記入し、郵送で九州大学大学院医

食道がんの診療を行っている施設(全国約100施設)からデータの提供を依頼(九州大学大学院

佐伯 浩司)が解析します。

ください。